

Beyond KUSS, 2019 !!

特別入試出願状況

文部科学省は大学入試について、「一般入試」以外に「多様な入試方法」を工夫することを求めています。「多様な入試方法」として、AO入試と推薦入試(以下「特別入試」)が知られています。募集定員に示す比率(概数)は、私立大学では定員の過半数、国立大学では約15%、公立大学では約27%が特別入試の定員を占めます。

5回生の特別入試出願は、延べ127件のうち、私立大学が95件を占め、特別入試延べ出願者のうち約75%を占めます(表①)。実出願者数は、理系21名、文系56名、男子18名、女子59名、計77名です(表②)。「文系・私大・女子」が特別入試出願者の特徴です。

『第1志望設定の支援』は、『合格できそうな』大学を探すのではなく、『学びたい』大学を追究することを軸に本校の進路指導を進めることはすでに伝えていきます。実際のところどうでしょうか。夏季休業中と夏季休業前の2回の模擬試験で第1志望に記した大学のみに出願している者は27名(約35%)です(表③)。特別入試出願者のうち50名(約65%)は、第1志望以外の大学にも出願しています(表④)。第1志望以外の大学に複数出願している人もいます。

特別入試を否定する気はまったくありません。しかし、「学びたい大学」から「合格できそうな大学」へ出願が変化していくことには危機意識を感じます。この傾向は、一般入試にも影響を及ぼす可能性が高いです。「学びたい大学」をめざすために全力で学習する姿勢を置き忘れてしまうと、「学ばない大学生」になってしまう危険性が高くなります。

本校は、卒業生が「大学で学ぶ学生」、「社会で活躍する人材」に成長することを強く願っています。「学びたい大学」を軸としない出願は、将来に対して大きなリスクを負っていることを自覚しましょう。「合格する」ことはもちろん大切です。しかし、「合格しないかもしれない症候群」に襲われてしまうと、受験は大失敗です。

11月に入り推薦入試の出願が始まります。出願者は、試験・合格発表とスケジュールは続きます。合格することを強く期待していますが、現実はなかなか厳しいです。特別入試だから合格しやすいことは、まったくありません。実質競争率が2倍を超えると不合格者が合格者より多くなります。

「学びたい大学」に合格することをめざし、学習を続けましょう。受験としっかり向き合い、今を過ごしましょう。体調に気をつけ、学習を進めましょう。

表①

特別入試出願延数

表②

特別入試出願実数
特別入試未出願実数

表③

第1志望のみ出願

表④

第1志望以外への出願

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

『Beyond KUSS, 2019 !!』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。